

# ニキド・サンファール★

Niki de Saint Phalle  
Wer ist das Monster-du oder ich?

ひと  
美しい獣



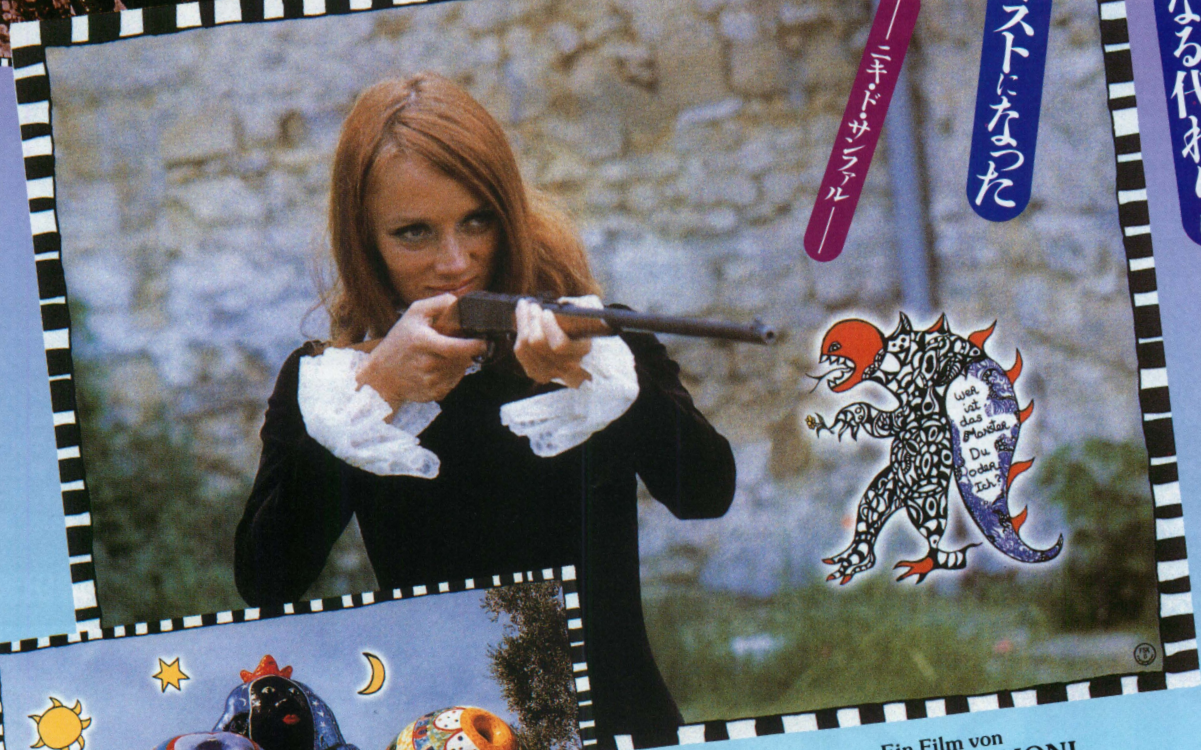
監督○ペーター・シャモニー  
出演○ニキド・サンファール○ジャン・ティンゲリー/他  
○1995年製作○ドイツ映画  
○35mm○1:1.66○93分○ドルビー・ステレオ



あたしはアーティストになった

テロリストになる代わりに

ニキド・サンファール



Ein Film von  
PETER SCHAMONI  
Mit  
NIKI DE SAINT PHALLE  
JEAN TINGUELY  
BERNHARD LUGINBÜHL  
LAURA CONDOMINAS  
CHOPIN-SATIE-STRAVINSKY  
BINZER-GLASS-MOONDOG



配給のバンドラ



# ニキ・ド・サンファル

Niki de Saint Phalle  
Wer ist das Monster-du oder ich?

## 美しい獣

監督のペーター・シャモニー  
出演のニキ・ド・サンファルのジャン・ティンゲリーほか  
1995年ドイツ映画カラーD1:1.66:93分

ニキ・ド・サンファルは、若い時には雑誌『ヴォーグ』などの写真モデルをしていたほどの美貌。60年代、〈射撃絵画〉を制作し、世界のアート界に衝撃を与えた。更に、ガウディにインスパイアされて、彫刻公園の創作を決意。マルグリット、エルンストラと出会い、映画製作・パフォーマンスとその活動の場を広げた。自由奔放・壮大な発想で旺盛な造型活動を続け、巨大な女性〈ナナ〉像を生み出した。子供のための彫刻公園〈ゴレム〉、パリの噴水公園〈ストラヴィンスキーの泉〉、イタリアのトスカーナで10年以上の歳月をかけて造園中の〈タロット・ガーデン〉(98年8月完成)など、現在、彼女の作品はパリ、エルサレム、カリフォルニア、那須をはじめ世界各地に展示されている。この映画で披露されるニキの作品群と彼女の制作現場は必見である。

### ニキ・ド・サンファルのアート

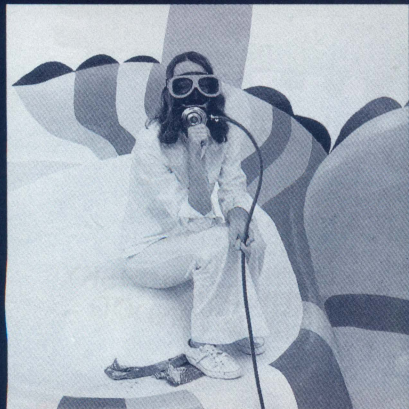
#### 横尾忠則(美術家)

キ・ド・サンファルに会ったのは、ぼくがデザイナーから画家に転身して間もなくの頃だった。アムステルダムでのシンポジウムに参加した帰路、パリに立ち寄った時、やはりパリに来ていた美術評論家の東野芳明さんに連れられて、ニキの家を訪ねた。

画家に転身したばかりで、これから現代美術の世界に飛び込もうとしている時だったから東野さんは、ぜひ彼女に会っておくといよと誘ってくれたのだった。彼女の作品はすでに知っていたし、何よりあの巨大な女(ナナ)のスクランダラスな作品は、あまりにも有名だった。

写真で見覚えのあるアトリエの玄関に現われたニキは、真紅の洋服に同色の鳥の長い羽を頭髮に突き差していた。フランス美術界きっての美人画家は東野さんを大歓迎した。ぼくは東野さんの後で緊張して小さくなっていた。

自宅兼アトリエにいたるところに制作中のオブジェや絵が置かれていた。ぼくはまるで夢のような気分でウロウロキョロキョロし、眼に飛び込むもの全てに心を奪われていた。



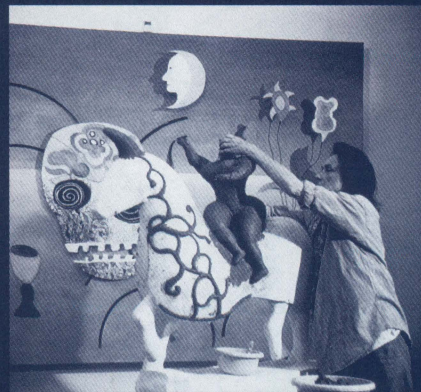
画家になりたてのぼくは彼女の生活と創造の全てに興味があった。そんなぼくの心を読んだ彼女は、次々と制作中の作品を説明しながら見せてくれ、出来たばかりの新作の版画を東野さんとぼくにプレゼントしてくれた。また室内に流れているインド風の音楽にぼくがすっかり心を奪われていると、彼女は「このレコードは友達を作ったものだけど、よかったらあげるよ」といってレコードまでプレゼントしてくれた。

東野さんはニキとも彼女の恋人のジャン・ティンゲリーとも友達である。そのティンゲリーは今スイスで仕事をしていると聞いていた。この家には彼女の娘と、もうひとりアメリカ人の男が住んでいた。ターザン映画の俳優みたいな男で、ある日この家にひょっこり現われて「ここはぼくが住むべき家だ」といったままもう二、三ヶ月居そうろうをしているそうだ。

見知らぬ男を簡単に家に迎え入れてしまうニキのそんな自由な精神にぼくは感動してしまった。彼女の芸術の自由な表現はそのま彼女の生き方でもある。

映画『ニキ・ド・サンファル 美しい獣』を観ると、なぜ彼女が巨大なセックスシンボルのような女性を制作するかがよくわかる。彼女の父親に対するコンプレックスがああ暴力的なライフで撃ちまくる絵画であったり、巨大な女の裸像やベニスであったりするのだ。

芸術は両性具有から生まれる。つまり母性と父性が芸術を成立させるのである。ニキの芸術はまさにこの母性と父性の反発と結合から生まれている。ティンゲリーという父性とニキの母性の肉体と魂の交流が、二人の芸術をより肉体的なものにしているようにぼくは思うのである。◆



キ・ド・サンファルの作品は、過激であればあるほど、不思議な優しさに満ちています。創造性、生命、戦い、苦悩、愛といった幾相もの思いを、まるごと包み込むかのような強烈な色彩と過激な造形。そのひとつひとつが、彼女の自叙伝であり、壮大な神話の入口でもあります。唯一であり、すべてでもある永遠の物語に触れる時、誰もが、不思議の国のアリスとなるでしょう。

#### ニキ美術館館長 増田静江



配給のパンダラ ☎03-3555-3987  
〒104-0041東京都中央区新富2-5-11正福寺ビル

12/12(土)~25(金)ロードショー!! 連日 12:50 2:45 4:40 6:35

特別鑑賞券1500円好評発売中!! (当日/一般1800円、大高生1500円、中・小・シニア1000円) ※ただし、12/18(金)のPM.6:35の回は休映

モーニング&レイトショー	12/5(土)~11(金) 『アルテミシア』	監督 アニエス・メルレ 1997年/101分	＜モーニング＞ AM10:30 ＜レイト＞ PM8:45
『ニキ』公開記念 WOMEN & ART 映画特集 1200円均一	12/12(土)~18(金) 『アントニア』	監督 マルレーン・ゴリス 1997年/103分	＜モーニング＞ AM10:40 ＜レイト＞ PM8:30
	12/19(土)~25(金) 『バスキア』	監督 ジュリアン・シュナベル 1996年/107分	＜モーニング＞ AM10:40 ＜レイト＞ PM8:30

地下鉄中央線 一本町  
九条駅

丸の内線	丸の内線	丸の内線	丸の内線
丸の内線	丸の内線	丸の内線	丸の内線
丸の内線	丸の内線	丸の内線	丸の内線
丸の内線	丸の内線	丸の内線	丸の内線

シネ・ヌーヴォオ  
地下鉄中央線 丸の内線 九条駅 6番出口下車  
大阪ドーム方向へ徒歩2分  
TEL06-582-1416